

2016 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	スポーツ・健康科学研究科
評価基準 1	理念・目的
点検・評価項目(1)	1-1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
評価の視点	理念・目的の明確化
	設置の主旨や歴史からみた理念・目的の適切性
	個性化・独自性、国際化への対応
点検・評価項目(2)	1-2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	構成員に対する周知方法と有効性
	社会への公表方法
点検・評価項目(3)	1-3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

1-1	スポーツ・健康科学研究科は、「スポーツや身体活動及び健康や医療に関する諸問題を分野横断的及び学際的な視座から解決するために、人間という視点から適応、行動、健康、医療に関する研究を行い、幅広い視野と高度な技術・技能をもった教員、専門的指導者及び職業人を社会に輩出することによって人々の健康的な生活や文化的活動に貢献する」ことを理念として 2009（平成 21）年に設立された。 このような理念に基づいて、研究科の教育研究上の目的を、以下のように大学院学則に定めている(A1-2 第 3 条の 2 第 1 項第 7 号)。 スポーツ・健康科学研究科修士課程は、スポーツ関連領域と健康関連領域を配置し、スポーツや身体活動および健康や医療に関する分野横断的、学際的な教育研究を行うことで、幅広い視野と高度な知識・技能をもった専修免許を有する教員、各領域の専門的指導者および職業人を輩出することを目的とする。 （平成 29 年度に 4 領域から 2 分野へ移行、平成 28 年 3 月 24 日理事会承認）
1-2	スポーツ・健康科学研究科の教育研究上の目的は、ホームページ(B1-6)や『大東文化大学大学院案内』(A1-7 p2, p30)、スポーツ・健康科学研究科『大学院履修要項』(A1-16 p.11～p.12)によって教職員や学生に周知を図り、社会に公表している。 また、入学時のガイダンスや必修科目である「スポーツ・健康科学研究法」(オムニバス方式)の前期の初回授業において、研究科委員長が本研究科の理念および目的などを周知させている (A1-16 p.11～p.12、B1-22 d2-表 1)。
1-3	理念・目的の適切性については、自己点検・評価において定期的な検証を行っている(B1-16)。また、研究科の開設から 8 年目を迎えるに当たり、今後のスポーツ・健康科学研究科の将来像を踏まえ、2014 年度に研究科内に設置したカリキュラム改革ワーキンググループおよび入試ワーキンググループから選任された委員から構成される検討委員会において、理念・目的の適切性などについて検証を進める予定である。

【効果が上がっている事項】

1-1	
1-2	本研究科の理念・目的について周知しているか 2014 年度以降、必修科目「スポーツ・健康科学研究法」においてアンケートを利用して認知度の調査を行っている。
1-3	

【改善すべき事項】

1-1	理念及び目的の適切性など、研究科の根幹に関わる事項の検討作業に着手する。
1-2	
1-3	明文化された研究科の 3 つのポリシーに基づいて、教員と院生を対象とした定期的なアンケート調査を通して、研究科の理念・目的の適切性について研究科委員長、専攻主任、自己点検評価委員、カリキュラム改革ワーキンググループおよび入試ワーキンググループから選任された委員から構成される検討委員会において定期的に検証する。

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

<根拠資料>	
A1-2	大東文化大学大学院学則
A1-7	大東文化大学大学院案内 2015
A1-16	大学院履修要項 スポーツ・健康科学研究科 2016 年度
A1-17	2016（平成 28）年度大学院の手引き

B1-16 大東文化大学ホームページ（自己点検・評価活動） http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html B1-22 大学データ集 <大学基礎データ> d1-表1 全学の設置学部・学科・大学院研究科等（2016年4月1日現在）
〔追加資料〕

Ⅲ【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標			評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～2018)	1-2,1-3 理念及び目的の適切性など、研究科の根幹に関わる事項の検討作業に着手するとともに、理念・目的が教職員や学生にどの程度浸透しているかについて定期的に検証するシステムを構築する。	「スポーツ・健康科学研究科自己点検評価委員会報告書」、あるいは「研究科委員会議事録」に検討結果が記載される。	→		A		
14年度目標	1-2,1-3 大学院の手引きに研究科の理念・教育研究上の目的を掲載する。2014年度は、理念・目的の適切性や国際化の流れに適切に対応したものであるかをカリキュラム改革WGで検討する。	「大学院履修要項2014」あるいは「大学院の手引き2014」に掲載されること。「スポーツ・健康科学研究科自己点検評価委員会報告書」、あるいは「研究科委員会議事録」に検討結果が記載される。	→	A			
	1-2 在校生アンケートに研究科の理念・目的を問う設問を付加する。	スポーツ・健康科学研究科FD委員会報告書、あるいは「研究科委員会議事録」に検討結果が記載される。	→	S			
15年度目標	1-3 研究科の理念と目的が学術の進展や社会的要請との適合性、国際化の流れ、研究科の3つのポリシーに照らし合せて適切であるかカリキュラム改革WGで検討する。	「大学院履修要項2015」及び「大学院の手引き2015」に掲載され、「スポーツ・健康科学研究科自己点検評価委員会報告書」、研究科委員会議事録に検討結果が記載される。		S			
	1-2 年度始めに大学院生に対して研究科の理念・目的に関する定期的なアンケート調査を実施する。	スポーツ・健康科学研究科FD委員会報告書及び研究科委員会議事録に検討結果が記載される。		A			
16年度目標	1-3 研究科の理念と目的が研究科の3つのポリシーに照らし合せて適切であるかカリキュラム改革WGで検討する。	研究科委員会議事録に検討結果が記載される。			B		
	1-2 年度始めに大学院生に対して研究科の理念・目的に関する定期的なアンケート調査を実施する。	スポーツ・健康科学研究科FD委員会報告書及び研究科委員会議事録に検討結果が記載される。			A		